2. 事業の概要と成果	•				
	おおむね達成 • 15 チームへの「土のう工法」を用いた道路補修トレーニングを実施し、約 1800mの未舗装道路が補修され、住民の生活道路の通行性が確保された。				
(1)上位目標の達 成度	• 道路補修のインパクトをフォローアップミーティングで参加者から集約したところ(別添:効果検証シート/項目別効果検証参照)、年間を通じた病院・学校等への公共機関へのアクセスが確保された、公共交通機関の料金が下がった、農作物の販売価格が向上した等の効果が確認された。なお、本プロジェクト参加メンバーが養鶏など新たな活動を開始するなど、本プロジェクトがきっかけとなり住民活動が活発化した事が確認された。				
 活動1 アソシエーション執行部役員との定期ミーティングの実施 ウワシンギシュ農村開発アソシエーション (以後 URDA) の執行部 5 名をい心に 21 回の役員会が行われ、組織運営管理や活動について話し合いが持たれた。 活動2 関係機関を招致したワークショップの開催 (2011 年 10 月 18 日) 道直し実施のための協力体制の構築についてのワークショップの開催 (2012 年 8 月 31 日) 活動3 経験者向け道直しトレーニングの実施 すでに道直しを経験している 5 グループに対し、「土のう工法」による農整備に必要な資機材の見積方法、助成を得て事業実現に向けた申請書の書きのトレーニング (2 日間)、「土のう工法」による道直し (5 日間)を行った。活動4 初心者向け道直しトレーニングの実施 「土のう工法」による道直しに初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道直しに初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面した初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面した初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面した初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面した初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面した初めて取り組む 10 グループに対し、「土のう工法」による道面に対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい					
(3)達成された効 果	 活動1:執行部役員による定期的なミーティングがもたれ、下表1の組織運営に必要な事項が整備され、会社組織として登録が行われた。 表1 URDAの組織運営状況 現在の状況 組織(登 4 道路省にコントラクターとして指名されるため、改めて会社経験)体制 組織として登録した。 運営のた 4 入会金: URDAに加入する際2,000 Ksh/グループ 4 その他: URDAとして得た仕事の報酬(労賃)に対して10%を 徴収し URDAの運営資金に当てる。				

け	V _o	
	• KeRRA、KURA*ワーレンカウンティ、ウワシンギシュカウ	
	ンティンセルに対して事業協力を依頼(2012年8、9月)	
	•周辺住民を巻き込み、ボランティアベースでの農道の補修事	
	業を開始(2012年9月4日から約100名が参加し継続中)	
	*KeRRA: ケニア農村道路公社、KuRRA: ケニア市街地道路公社	-

活動 2:

ワークショップが開催され(2011年10月18日)地方行政組織等の関係機関等とURDAメンバーによる意見交換・活動のプレゼンテーションが行われ、「土のう工法」による道直し活動が理解された。

• URDA 主催の道直し実施のためのワークショップが開催された(2012 年 8 月 31 日)。*現在まで KeRRA、KuRRA、カウンティ等から URDA の申請に対する積極的な協力は得られていないが、URDA が主体となり道直し活動(コミュニティレベルでのボランティアワーク)が開始された(2012 年 9 月 3 日)。

活動3:経験者向け道直しトレーニング(5 チーム)を実施し、下表2のとおり道路補修が行われた。

- 道路の補修距離:589m、参加農民数:179名
- トレーニングを行った5つのグループから、KeRRA ウワシンギシュ事務所 に対して、道直し活動継続のための事業申請書が提出され(1月14日)現 在回答待ちの状態である。

表 2 経験者向けトレーニングで行った道路整備内容

34.	女と 作数日刊リーン 一ングで刊 270 起却正備に行						
	実施日	実施した県	グループ 名	参加者	施工 距離 (m)	備考	フロ ーア ップ
1	10/10-15	エルドレッ	カプタベ	38	264	側溝整備:396m	8/21
2	11/21-25	トウェスト	エペソ	36	102	側溝整備:225m	8/9
3	11/7-11	エルドレットイースト	コクワル ック	33	73	側溝整備:160m ドリフト設置:1m	8/10
4	10/24-28		カゾキ	36	68	側溝整備:236m	8/6
5	10/31- 11/1	ワーレン県	ジャショ コア	36	80	側溝整備:950m ドリフト設置 2m	7/19
	•			179	587		

活動 4: 初心者向け道直しトレーニング(10 チーム)を実施し、下表 3 のとおり道路補修が行われた。

- 道路の補修距離:1,215m参加農民数:330名
- 道直し活動に熱心に参加し技術を習得した326名に対し認定書を授与。

表 3 初心者向けトレーニングで行った道路整備内容(ワーレン県)

	実施日	グループ名	参加者 (人)	施工距 離 (m)	備考	フロ ーア ップ
1	11/28-29, 12/14-16	クカダ	36	61	側溝整:416m ドリフト設置:5m	7/17
2	1/16-20	マザル	33	226	側溝整備:532m	8/22
3	1/23-27	シマット	33	170	側溝整備:220m	8/21
4	1/30-2/3	ランガス	33	196	側溝整備:464m	6/29

5	2/21-25	オアシス	33	180	側溝整備:372m	7/19
6	2/28-3/2	ジャショマレ-ル	36	76	側溝整備:467m	7/18
7	3/5-9	キムリ	33	56	側溝整備:268m	8/8
8	3/12-16	セリトウェット	33	87	側溝整備:570m	8/23
9	3/19–23	ソンゴリエット	32	80	側溝整備:576m	8/7
10	3/26-30	カプレラッチ	28	83	側溝整備:205m	8/21
			330	1,215		

プロジェクトの実施後の効果

○住民の生活への影響

(活動終了後のグループミーティングで得られた420の回答から抜粋)

- 路面の轍がなくなり、滑りにくくなり通行が改善した(26 回答)。
- 道路の排水路が整備され、周辺の家や畑の排水が改善した(17回答)。 →マラリアなど疾病が減少した(6回答)。
- バイク・自転車タクシーが通行しやすくなった(11回答:うち値段が下がった(7回答))。
- 土地の値段が上がった(8回答)。
- 学校や診療所へのアクセスが改善した(22 回答)。
- 道路補修の新しい技術を身につけることができ、自分達でできるという自信がついた(55回答)。
- 作業が大変だったなど、ネガティブな反応(21回答)。
- トレーニング期間を長くしてほしい(15回答)。
- 別のプロジェクトに取り組むなど、グループ活動が活発化した(28回答)
- 他のグループや村人に「土のう工法」を教えた。
- メンバー(加入希望者含む)が増加した。
- 周辺コミニティから感謝され、もっと補修活動を行ってほしいとの要望が寄せられた(13回答)。
- 地域の教会などから、仕事を依頼された。
- トレーニングを見て村人が「土のう工法」を使った道直しに挑戦した。

○農作物価格への影響

道直しが行われる以前の2011年と、道直し後の2012年の7、8月の農作物の価格を比較したところ、2011年の同時期に比べ取引価格(農家の販売価格)は上昇し、キヨスク等での販売価格は低下(ランガス等の市街地)した傾向であった。農村部に農作物を購入に来る仲買人が増えた事、市街地で農作物を納入する生産者が増加した事が一因として考えられる。

(4) 持続発展性

- ・URDA が主体となって周辺住民を巻き込んだ農道の整備が開始され現在も継続中である。このことからも、本事業を通じてトレーニングを受けた農民の技術を習得しようというやる気を引き出すことに一定程度成功したと評価することができ、「土のう工法」を使った道路補修が継続されることが期待される。
- ・農民がボランティアで行っている道路補修の活動政府機関等へのアピールを 引き続き支援し、マラム土等の材料供給の助成につなげることでさらに持続性 を高めたいと考えている。
- ・現在 URDA が申請しているコントラクターとしての登録を早期に完了させ、 地方行政機関からの道路工事施工などを請け負える体制を整える。